（2020 年 3 月 11 日受稿　2020 年 4 月 22 日受理）

【研究ノート】

田村一二『手をつなぐ子等』の書誌的検討
―戦中および戦後占領下における出版事情と検閲・修正―

玉村公二彦（京都女子大学）
連絡先　E-mail：tamamura@kyoto-wu.ac.jp

はじめに

田村一二（1909 ～ 1996）は，よく知られているように知的障害児の教育・福祉の昭和を代表する実践家である．教育実践をベースにした児童文学を創作するとともに，画家として作品を発表してもいた．その意味で障害児教育実践の歴史の中で多面的な顔をもつ人物である．田村の著作について，清水寛は「教育小説」と表現して，戦前・戦中における田村の教育実践，教育活動との関係で内容を吟味しているが[1]，それらの著作は文学や芸術といった側面もふくめてさらに総合的に把握され，評価されるべき作品群である．

児童文学の中の障害像を検討した長谷川潮は，障害のある子どもを描いた長編として先駆的に登場したのが，川端康成の『美しい旅』と田村一二の『手をつなぐ子等』だとしている[2]．一方で，この二つの作品は，児童文学のアウトサイダーによる作品で，児童文学の分野ではほとんど評価されないままできたと指摘している．川端康成は，言わずと知れたノーベル文学賞受賞者であり，日本文学を代表する作家である．文学の川端に対して，知的障害児を中心として教育と児童理解を深めてきた代表として田村一二があるのであろう．児童と文学のそれぞれの方面から，障害にアプローチしたという意味で，長谷川の「最初の長編『美しい旅』と『手をつなぐ子等』」の稿は興味深いものがある．

長谷川は，田村一二の『手をつなぐ子等』について書誌と内容上の特徴を示し，占領下での検閲修正について指摘していたが，検討がなされていない部分がある．『手をつなぐ子等』は，戦中と戦後直後の 180 度といっていい歴史的転換の中で出版され，しぶとく再版が続けられ読み継がれてきた希有な児童文学であるといってよい．ここでは，その全体的な書誌的な変遷を整理するとともに，戦中の出版事情と敗戦後の占領下の検閲の中で修正されてきた部分について検討を行っておきたい．

1．『手をつなぐ子等』の書誌の概要

『手をつなぐ子等』の初版は，戦時体制下の 1944 年 1 月に大雅堂から出版された．出版社は，大雅堂，大阪教育図書，そして北大路書房と変遷し，北大路書房版で『手をつなぐ子等』から『手をつなぐ子ら』へと修正された．まず

は，出版社ごとに区分し，その変遷について述べておきたい．

①大雅堂版

大雅堂版の『手をつなぐ子等』については，初版（1944年1月），第2版（1944年10月），第3版（1945年8月）までが，戦中の時期に出されたものである[3]．第4版以降が戦後の版である．第4版（1946年3月），第5版（1948年2月）があり[4]，第6版（1948年6月）と第7版（1949年3月）は，GHQの占領下においてCCD（民間検閲局）による検閲の中で収集され，メリーランド大学に所蔵されたものがある[5]．大雅堂版は，戦中は軍部，戦後直後は民間検閲局（CCD）の検閲を経て発行されたものであり，発行事情や修正も含めて後に詳細に検討するものとしたい．

②大阪教育図書版

その後の別版として，『忘れられた子等・手をつなぐ子等：田村一二名作選』（大阪教育図書，1950年11月）がある．この「はしがき」には，大雅堂版は1949年の第7版が最後だったと記されている．その後，『忘れられた子等・手をつなぐ子等：外三編』（大阪教育図書，1958年2月）が再度発行されたが，これらは「忘れられた子等」「手をつなぐ子等」「特異工場」「開墾」「石に咲く花」をまとめたものであり，このまとまりを田村自身は次のように述べている．

> 「忘れられた子等」は特別学級に於ける精神薄弱児の実態とその教育について，「石に咲く花」は特別学級における精神薄弱児の教育とその卒業後の状態について，「手をつなぐ子等」は普通学級に於ける精神薄弱児の教育について，「特異工場」は特別学級を卒業した精神薄弱児の製薬工場就職の状況を，さらにその中の「開墾」においては「精神薄弱児施設」開設当初の様子について，それぞれ書いたものである．／一冊ずつ，一応完結しているが，内容的につながりを持つので，四冊が一冊にまとめられていると精神薄弱児が特別学級から社会へ進んでいく状態がよくわかって面白い．（後略）

③北大路書房版

図書館などで，よく見かけるのは北大路書房版の『手をつなぐ子等』（1966年9月）であり，同年同月付の書名で『手をつなぐ子ら』（1966年9月）が出されているようである．早々に書名は『手をつなぐ子ら』に修正されたと考えられる．北大路書房が，1967年6月発行した「田村一二著作集」は，『忘れられた子ら』『石に咲く花』『手をつなぐ子ら』『百二十三本目の草』『はなたれとぼけ』の5冊をセットにしたものであり，それにパンフレット『田村一二の人と仕事』をつけたものであった．このセットにはいっているものも『手をつなぐ子ら』となっており，その奥付も1966年9月15日初版発行とのみ記載されているだけである．

2．大雅堂版『手をつなぐ子等』の書誌的変遷

最も注目されるのが，戦中から戦後占領下において出された大雅堂版の『手をつなぐ子等』である．大雅堂は，1943年，戦中の企業整備によって，田村一二の最初の著作『忘れられた子等』を世に送り出した京都の教育図書株式会社を中心につくられた出版社であり，田村敬男が代表取締役となっていた．

この大雅堂から出された『手をつなぐ子等』の奥付を中心に整理したものが**表1**である．

先に示したように，大雅堂版の『手をつなぐ

表１．大雅堂版『手をつなぐ子等』奥付の変遷

版番号	発行年月日	発行数	定価＊	発行者	印刷者	備考・所蔵など
1（初版）	1944年１月10日	3000	２円	田村敬男	からふねや印刷所（京都市左京区東山）	国会図書館所蔵奥付日付に修正あり
2（再版）	1944年10月５日	10000	２円	田村敬男	伊藤二郎（京都市下京区岩上通五條上がる）	帯あり・日本出版会「推薦の辞」
3	1945年８月20日	5000	２円	田村敬男	日本写真印刷有限会社（京都市下京区）	
4	1946年３月20日	記載なし	10円	田村敬男	梶田四郎（株式会社竹秀）	愛媛大学図書館所蔵
5	1948年２月10日	記載なし	45円	和田忠次良	河北喜四良（京都市中京）	田村一二記念館（湖南市教育委員会）
6	1948年６月１日	記載なし	65円	和田忠次良	中村七右衛門（大津市西東）	プランゲ文庫
7	1949年３月１日	記載なし	100円	和田忠次良	江戸卯一郎（共働社印刷所京都市上京区）	プランゲ文庫 国会図書館

子等』は，初版から第７版まである．初版から第３版までが戦中版であり，同一のものである．発行時期として特筆されるのは，第３版であり，1945年８月15日の玉音放送の５日後，８月20日の発行となっている．第４版，第５版が，戦後直後版であり，戦前版を修正（第一次修正）して発行されたものであり，同一のものである．その後，プランゲ文庫に所蔵された第６と第７版があり，これらは再度修正（第二次修正）がなされて発行されたものであり，表紙が変えられているほか内容は同一のものである[6]．内容上の変更や修正などについては後に検討する．

①装丁

本の装丁であるが，それぞれの版の表紙の推移を示しておいた（写真１：表の表紙のみ，第６版，第７版については，プランゲ文庫のものを示した．プランゲ文庫のものには，検閲番号，検閲日，分類などが書き込まれている）．

なお，中身の装丁では，ヘッダ部分に「手を

1・2・3版表紙

4・5版表紙

6版表紙（プランゲ文庫）

7版表紙（プランゲ文庫）

写真１　『手をつなぐ子等』各版の表紙

つなぐ子等」（右）と各章タイトル（左）が第5版まではついており，第6版以後はヘッダ部分がない．

②部数

出版部数であるが，これは戦中版のみわかっている．戦中版で，全体で1万8千部発行されたことになる．戦後版の発行部数は記載がなく不明である．戦時体制下における出版自体が困難をともなうものであるが，それを可能としたのが出版を担った発行者の田村敬男と大雅堂の手腕である．

このことの一端を示すのが，長谷川も指摘しているように，第2版に添えられた帯に示された，1944年7月8日付けで日本出版会の「教養・国民一般向」として推薦図書となったことであろう（**写真2**：再版（2版）の帯）[7]．

③発行者

発行者は，戦後の第5版以降，田村敬男から和田忠次良にかわっているが，占領下における印刷用紙配給にあたって起こった不祥事の責任を田村敬男がとり大雅堂取締役を辞任したことによるものである．**表1**には，印刷者についても記載しておいたが，それぞれの版で印刷所を変えている[8]．

④定価

定価は，戦中版は2円，戦後版は，10円，45円，65円，そして100円と急上昇し，終戦直後の大幅なインフレが影響している．

総括的に戦中版についてのみ述べれば，1万8千部印刷されており，戦中にもかかわらず，また，敗戦の詔勅の後であっても発行されていたことは驚くべきものである．戦中にもかかわらず，また，敗戦が見えている歴史上においても増刷されることを可能としたものは，後に詳しく述べることとなるが，発行者田村敬男の手腕によるものと思われる．

3．占領下検閲と『手をつなぐ子等』修正内容

敗戦後，占領政策として民主化と非軍事化を掲げたGHQは出版物をはじめとしてすべてのメディアの検閲を行っていった．1945年9月のはじめには民間検閲局が活動を開始し，日本新聞紙法（9月19日），日本出版法（9月21日）が出され，10月には書籍のゲラ刷り段階での事前検閲が開始された．なお，1947年10月から書籍は一部を除き完成本を提出して事後検閲をうけることとなった．事前・事後の検閲の際には，「大東亜戦争」「八紘一宇」「英霊」などの戦時用語の使用を禁止するなど11項目にわたる事項が指示されており，同時に検閲の痕跡を残さないような修正が求められた[9]．

長谷川は，第2版と第6版の比較を行ってお

写真2　再版（2版）の帯

り，戦中と戦後の改稿の基本的な修正箇所を確認できる．しかし，第6版は1948年に出されたものであり，占領下のはじめての検閲下での修正されたものではなかった．それ以前に出された第4版と第5版が存在し，時期的にいえば，第4版は事前検閲制のもとで修正されたものであり，1947年に事後検閲に移行したとすると，第5版から事後検閲となったものと思われる．同時に，第5版から4カ月後に第6版が発行されているのである．戦中から戦後にかけての『手をつなぐ子等』の修正も含めて，これらの発行過程全体を捉える必要がある．

すでに，大雅堂版の書誌的変遷を示した際に内容の版ごとのまとまりの概要を示したが，①戦前版，②第一次修正（第4版，第5版），③第二次修正（第6版，第7版）の3つに区分できる．**表2**は，戦前版と戦後版の全体を通した修正箇所を比較対照させたものである．

第一次修正では，次のような改訂と修正を取り出すことができる．

①序と最終章となる「同窓会」の全文削除

②センテンス丸ごとの削除（例：№8「話が軍人のことになつて来たためか，先生の口調までが，軍人口調になつて来た.」など，№10，11については後述）

③戦時用語の部分削除や修正（例：№18「愛国行進曲」などの削除，№6「陛下の赤子」から「国民学校の児童」への修正など）

④戦争を想定している発言部分の修正（例：№5～7など）

⑤心情や行動の描写の付加（例：№3，№21の母親の描写など）．

時代設定が戦時中であるので，戦争についての記述は避けられないが，「天皇の赤子」や「愛国行進曲を歌う」などストレートな軍国主義的な表現部分を変更するのが改訂の目的であったと推察される．しかし，たとえば物語のはじまりのタイトルが戦前版と同じタイトルの「出征」とされており，第二次修正において変更される部分など，検閲において見落とされていたものもあるようである．なお，第4版の改訂における，事前検閲の内容について田村一二や大雅堂と検閲担当者とのやりとりの詳細は不明である．

さらに，主要な改訂・修正は，第一次修正でなされていたが，プランゲ文庫に所収されている第6版の第二次修正では，軽微な修正とともに，第一次修正で削除された戦前版の部分が修正のうえ復活しているところがある．それが，以下の父親からの手紙の部分である（№10，11）．

「　……身はもとより　お国に（大元帥陛下に）捧げ奉つたものに有之，生に対する執着，死に対する恐れは微塵も御座無く候，さりながら（後略）必ず必ず立派に戦死可仕候……」（31～32頁）

この時期の検閲が事後検閲であったとしても，すでに削除されていたものを再度復活させたことは看過することはできない意味をもつと思われる．

なお，印刷の版組という点では，序と最終章のまるごとの削除をおこない，各ページの修正の仕方では，1行内あるいは1ページ内で改訂が済ませられるようになっている．例えばセンテンス丸ごと1行削る場合，空白行の挿入を行うなどの工夫がなされている．序の頁は別ページとなっていること，そして最終章は丸ごと削除されていることによって，本文のその他の部分はページ数もずれないようにされている．活版印刷での改訂・修正での頁を越えた大幅な版の改訂がないよう，印刷上の便宜を重視したことと，同時に，占領下の検閲において，検閲の痕跡を残すことのないように配慮されたことが

表２．『手をつなぐ子等』修正内容比較（第一次修正・第二次修正）　　――下線削除修正，〰〰下線修正後，═══下線修正復活

№.	修正場所 （初版頁及び行）	１版，２版，３版	４版，５版（第一次修正）	６版，７版（第二次修正）
1	序１頁～５頁		（全文削除）	（同）
2	目次・タイトル １頁～２頁	序 出征 同窓会	（削除） 出征 （削除）	（同） 出発 （同）
3	17 頁 13 ～ 18 頁 1	父親は，決然として出征していった． 　後に残った母親は，どうせ学校を変わるならと思って，店をたたんで，寛太をつれ，実家のあるこの町へ帰って来た．	あわただしく，父親は出征していった． 　後の残った母親は，しばらくぼんやりしてしまつた．しかし寛太の学校はどうしてもかへなければならない． 　彼女は思い切って店をたたみ，寛太を連れて，実家のあるこの町へ帰ってきた．	（同）
4	18 頁 9	（何の心配もなく，安心して，夫に，働いても貰ひたい，そうでなければ，御国の為にすまない）	（何の心配もなく，安心して，夫に，働いて貰ひたい）	（同）
5	19 頁 8	「はい，まだ，その様な子供を教へた経験はありませんが，及ばずながら頑張ってみます，第一，戦場で奮闘してゐられる勇士に御心配をおかけしてゐる様では，銃後のわれわれとして申訳が立ちません」	「はい，まだ，その様な子供を教へた経験はありませんが，及ばずながら頑張ってみます，第一，そんな話を聞いて，教育者として，放っておくことは出来ません」	（同）
6	19 頁 12	「それに，寛太と雖も，ひとしく，陛下の赤子です」	「それに，寛太と雖も，ひとしく，国民学校の児童です」	（同）
7	21 頁 11	あたまが悪いからと云つて，馬鹿にするようなことのない様に，お互ひに，日本人同士なのだ，日本は今戦争してゐる．銃後の子供は強い子も弱い子も，みんな手をつないで行かなければ，戦争に勝てないと云ふことを云った． 　このあたりから，松村先生の口調はだんだん熱をおびて来た．	あたまが悪いからと云つて，馬鹿にするようなことのない様に．弱いものをいぢめて喜ぶやつなんかくだらんやつだ．みんなが一しょにしあはせになる様に，気張つて行くのが本当の人間の世の中だと云ふ様なことを云った． 　松村先生の口調はだんだん熱をおびて来た．	（同）
8	22 頁 6	それから，もう一つ，君等にしらせておく．中山のお父さんは，名誉の出征軍人だ，出征軍	それから，もう一つ，君等にしらせておく．中山のお父さんは，出征軍人だ，出征軍人の家	（同）

		人の家族である中山を，みんなで仲良く親切にすることは，われわれが兵隊さんへ感謝するみちの一つだ．わかったね．紹介終りッ」 話が軍人のことになつて来たゝめか，先生の口調までが，軍人口調になつて来た．	族である中山を，みんなで仲良く親切にすることは，われわれが兵隊さんへ感謝するみちの一つだ．わかったね」	
9	28 頁 2	松村先生は，兵隊さんの様な礼をすると，怒つた肩をぐつと上げて，校長室を出て行った．	松村先生は，頭をぴょこりと下げると，怒つた肩をぐつと上げて，校長室を出て行った．	（同）
10	31 頁 9	……身はもとより　大元帥陛下に捧げ奉つたものに有之，生に対する執着，死に対する恐れは微塵も御座無く候，さりながら（後略）	……さりながら（後略）	……身はもとより【お国】に捧げ奉つたものに有之，生に対する執着，死にたい知る恐れは微塵も御座無く候，さりながら（後略）（＊修正の上復活）
11	32 頁 1	必ず必ず立派に戦死可仕候……	（削除）	必ず必ず立派に戦死可仕候……（復活）
12	32 頁 9	そして，その横に，教場は戦場に通ず．としてあり，更にその下にかつこして（全員必読）と書かれてあつた．	（同）	そして，その横に，（部分削除）（全員必読）と書かれてあった．
13	52 頁 1	しかし，早晩，何らかの機会に，奥村に対して，挑戦しなければならなくなるだらうと云ふ予感を彼は持つた．	しかし，早晩，何らかの機会に，奥村に対して，挑戦しなければならないと彼は考へてゐた．	（同）
14	54 頁 11	あいつは，淋しいのだ． それは，氷が解けはじめた証拠だ，	あいつは，淋しい． それは，既に氷が解けはじめた証拠だ，	それは，既に氷が解けはじめた証拠だ． （末尾を句点に修正）
15	61 頁 3	と云ふ，凄い睨みに出会ふと，人のいい顔をしょぼしょぼとさせると，亀の子の様	と云ふ，凄い睨みに出会ふと，人のいい顔をしょぼしょぼとさせて，亀の子の様	（同）
16	63 頁 9	みんな（おやッ）を云ふ様な顔をして，山金をみた．	みんなが山金の顔をみた．	（同）
17	75 頁 14	その晩，寛太は，母親から，ひどく叱られた．	（1 行削除）	（同）

18	112 頁 11	子供たちは，愛国行進曲を口笛で吹いたり，愛馬進軍歌を歌つたりした．	子供たちは，口笛を吹いたり，歌を歌つたりした．	（同）
19	150 頁 11	眼に一杯涙をためてゐた奥村は，たまらなくなつて，そうと右手を出すと，山金の左手をぐつと握つた．	奥村は，たまらなくなつて，そうと右手を出すと，山金の左手をぐつと握つた．	
20	158 頁 11	僕は片目ですが，兵隊になれるでせうか．若しなれたら，支那人や印度人をいじめてゐる米英の奴を，僕は，きつとやつゝけてやります． 若し，なれなかつたら，大きくなつて，寛ちゃんの様な人をいぢめる奴をやつつける仕事をしたいと思ひます．	僕は大きくなつて，寛ちゃんの様な人をいぢめる奴をやつつける仕事をしたいと思ひます．	（同）
21	160 頁 1	あさは，かおほあろてすぐ，母ちゃんと，東京をおばみます．天のうへいかをおがみます．それから，ごはんをたべます．ぼくは三ばいたべます．	あさは，かおほあろてそれから，ごはんをたべます．ぼくは三ばいたべます．母ちゃんは一ぱいたべます．	（同）
22	171 頁 13	手伝うのである．	手伝う．	（同）
23	183 頁 6	一同，行進係の先生の号令で，粛然として国民儀礼を行つた． 次に，会長訓示，校長先生である． 「子供は，鉄の様に強い体と，ごまかしのないまつ直な心と，猛烈な闘志を持つていなくては駄目である． 第一線の兵隊さん達は，今米英と激しい闘ひをしてゐられる． 君たちも，今日は，日本の子供として，恥ずかしくない様に，堂々と，猛烈に，闘つて貰ひたい．終り」	先ず会長訓示． 「子供は，鉄の様に強い体と，ごまかしのないまつ直な心と，猛烈な闘志を持つていなくては駄目である． 君たちは，日本の子供として，恥ずかしくない様に，堂々と，猛烈に，闘つて貰ひたい．終り」	（同）
24	192 頁 10	真剣な顔をしてゐるものが四人だけあつた．	真剣な顔をしてゐるものが五人だけあつた．	真剣な顔をしてゐるものが四人だけあつた．（再修正）
25	214 頁 4	最も適当なある軍需工場が見つかつた．	最も適当なある製薬会社が見つかつた．	（同）
26	「同窓会」218 頁～225 頁		（全文削除）	（同）

みて取れる.

4.『手をつなぐ子等』発行の論理と隠れた意図

これまで大雅堂版の『手をつなぐ子等』を中心として，その出版・発行・修正についてみてきたが，戦中，そして敗戦から占領下においてしぶとく発行されてきた『手をつなぐ子等』の歴史上の意義をつまびらかにするためにはいくつかの深めておく課題がある.

すなわち，第一に，初版出版から第2版の異例の増刷及び敗戦直後に出版された第3版の経緯について，第二には，占領下における検閲と第4版（第5版）の修正，特に検閲の実態との関係で内容について，そして，第三は，第5版（第6版）での修正と戦中版が復活する部分の事情についてなどである．現時点では十分それらの論点について史料を示した上で論究することはできないが，原作者の田村一二の戦中における教育体験と戦中から戦後直後の大雅堂とそれを担った田村敬男についてみておくことによって，『手をつなぐ子等』への思いとその発行・普及の論理とその意図について考えてみたい.

まず，ここでは，原作者田村一二と出版発行した田村敬男との関係から見ておきたい．二人の田村の出会いは，京都日の出新聞に田村一二が連載した「忘れられた子等」がきっかけである．その軽妙な文章と人間の純粋さに訴える真実さにひかれ，田村敬男が当時経営していた教育図書株式会社からその出版をしようとするところからはじまった．その際，田村一二から快諾を得たが，しかし，田村敬男は「精薄児を，著者とわたしが，商売の対象にするという誤解を父兄の方々が持ちはしないか」という危惧をいだいたという．そのときのことを次のように回想している[10].

「この旨田村一二氏にお話ししたところ，氏は言下に，そのような心配は無用であると述べ，もし心配ならば親たちにお会い下さいとの事で，ささやかな集りが持たれ，そこでわたしが心にかかることを述べるや，異口同音にこの出版によってこの子等を広く世に紹介して欲しいとのこと，そのことによってこの子等を受け入れてもらえる世の中にしてほしい等々お話があったし，またもし売れ行きに心配があるならわたし達がかついで売って歩きますとも言ってくれた真摯なあの親たちの目のかがやきをいまもってわたしは忘れることが出来ない」

こうして，田村一二の『忘れられた子等』が出され，続いて『石に咲く花』，そして『手をつなぐ子等』が，田村敬男の教育図書・大雅堂から上梓されていくのであった.

ここで，あらためて田村敬男（1904～1986）の経歴をみておきたい[11]．田村は，長野出身，銀行員として努めていた最中に業務上の災害により負傷し障害を負い，銀行を退職．その後，戦前の労働運動に参加，第1回普通選挙で労働農民党から出馬した山本宣治の当選に尽力，1928年，治安維持法の改悪批判を行おうとする山本が暗殺されるや，山本宣治の葬儀をプロレタリアート映画連盟（プロキノ）関係者に隠しカメラで撮影させた．その後も滝川事件の引き金になった学生をかくまい，滝川事件関係の印刷出版を組織したのも田村敬男である．常に特高警察に身辺を見張られていたが，第二次世界大戦下における企業整理をまとめあげ，出版や印刷関係で関西のまとめ役となる．また，1940年に組織された日本出版文化協会が解散し，混乱する出版文化協会を再編し日本出版会としていった中心にも田村敬男はいた．1942年7月には大日本出版報国団が組織され戦時体制出版機構がつくられ，大日本出版報国

団の副団長となった．戦中は名実ともに関西の出版社のまとめ役であり代表的存在だった．出版界にあって，戦中には陸軍の秘密印刷などにも関与した．

思想弾圧をかいくぐって生き延び，戦中においては出版・印刷界での田村敬男の位置は決定的に大きなものがあった．すでに長谷川潮が仔細に述べているように，『手をつなぐ子等』の第2版の帯にある「日本出版会推薦の辞」（昭和19年7月推薦）によって『手をつなぐ子等』は大幅増刷が可能となった．これも田村敬男によるものと思われる．長谷川によって紹介された推薦の辞を，改めて全文を示しておきたい（カタカナをひらがなに修正し，旧仮名遣いを改めた）．

「国民学校に於ける一精神薄弱児に取材した物語風の教育書．普通には見離され勝ちな不幸な児童が，担任訓導の熱意に充ちた指導と級友の友情に溢れた団結の力とによって遅鈍ながら皇国民の一人として育て上げられその特色を発揮し得るようになる過程を叙述している．

その着眼は難事中の難事とされる精神薄弱児の教育も，指導者の誠意と熱情とによってこれを普通学級中において十分その目的を達成することが出来ることを事実を以て示そうとしたことにある．

兎（と）もすれば外形的施設に依存して不可能を喞（かこ）うとする時弊に一矢を酬いた著者の達識は十分高く評価されてよい．描写もいきいきとしている上に，文書も優れ，文学として見ても十分に小説文学の価値がある．

人的活用が強く要請され，精神薄弱児の教育就中（なかんずく）その職業指導が注目されつつある際本書のごときは国民教育に対して多大の示唆を与える．国民教育に対してのみならず一般父兄に対しても推薦されてよい書物である．」

田村敬男は，戦時下における「出版用紙査定委員会」での体験を回顧して次のように述べていた．

「戦争もだんだん苛烈になり，用紙の割当ても窮屈になってくると，査定の度に必ず非常に優秀な研究に対しても，戦時下不急出版物として，用紙割当から除外する右翼的勢力が強くなってきた．

そんな時，必ず僕は発言を求め，文化面での内容評価を委員長に糺し，文化的価値の高い貴重な内容である，との委員長の決定的回答を得るや，再び声を大にして，いま各員お聞きの通りの貴重な研究の成果を，若し原稿のままで放置し，消失したり，紛失したりすることがあれば，これは日本の文化的損失である，最低採算の部数に対し用紙配給を行い，五百冊から千冊の本とすれば何処かに残り，子孫のための文化的遺産とすることが可能である，と述べ，さらに一段と声を高くして襟を正し，このような損失を招くことが考えられるにあたって，用紙配給をすることこそ「聖旨に答える」たった一つの道であろうと述べて，ずいぶん反動的な発言を封じ込めたものである．」

『手をつなぐ子等』においてもこのような手法で，第2版，そして敗戦間際の第3版を発行したことは想像に難くない．もともと，「この子等を受け入れてもらえる世の中」を意図して発行され，戦時体制下においては「皇国民」「人的資源」という用語をつかわざるを得なかったが，そのことから戦後は解放された．戦後においてはアメリカ進駐軍やその検閲官との間で緊張関係もあったかもしれないが，全体として，憲法・教育基本法が公布され，学校教育

法が制定されるという戦後の教育復興の中にあって，修正の上で知的障害の子どもへの教育の姿が民主教育の推進の役割を担うものと主張されたことは容易に想像されるのである．

おわりにかえて―その後の修正と映画『手をつなぐ子等』

田村一二の『手をつなぐ子等』について書誌的な検討を行ってきた．その中で，田村一二の実践を評価し，それを戦中そして敗戦という歴史が急展開する過程において『手をつなぐ子等』をはじめとした田村一二の実践の重要性を，出版を通して支え続けてきた田村敬男という存在が浮かび上がってきた．田村一二と田村敬男の『手をつなぐ子等』は，すでに戦中，伊丹万作とのつながりを経て，稲垣浩監督の映画『手をつなぐ子等』（1948年3月公開）にもなる．第二次修正の出征した父親の手紙の部分の復活は，この映画の制作のプロセスでなされたものであるが，その手紙自体を復活させることへの原作者田村一二自身の体験と思いがあると思われる[13]．

伊丹万作は，1944年，田村一二と親交を深め，聞き取りを行って『手をつなぐ子等』のシナリオを執筆していた．伊丹は，田村の石山学園に思いをはせ「石山学園の歌」（後の近江学園の園歌となる）をつくってもいる．伊丹と共同で映画をつくってきた稲垣浩は，「万作」という文章の中で，それまでの映画の製作について述べた後，『手をつなぐ子等』の制作について次のように述べている[14]．

「（前略）私は田村一二氏の『忘れられた子等』を書いて，是非やりたいと会社に申し出たところ，同じ著者の『手をつなぐ子等』を万さんが再起作品として計画していると聞いて，断念することとなつた．ところがやはり病状が悪く，これも私が代行することとなった．私はそれより先に，万さんを監督として私が助監督をつとめようと申し出た．しかし，その心使いは無用だと彼は断つた．／この作品は占領下に作ることとなつたが，進駐軍C・I・Eから戦後の話に書き改めなければ検閲を通せないと言ってきた．万さんはそれを聞いて怒り，それなら絶対にこのシナリオを使つてくれるなと言つた．私も彼の意を解し，米軍検閲官と二時間にわたりディスカッションして，原形のままで押し通した．しかし万さんは終にこの作品の出来上がりを見ずに世を去つたのである．」

伊丹万作のこの脚本への思いは強しである．なぜ，この映画では，時代設定を「昭和12年」とし，それを妥協せずに貫いたのか．そして，稲垣浩は，検閲官とどのようなディスカッションをしたのか．伊丹と稲垣のそれまでの映画づくりと映画批評などの背景にある思想，戦争についての彼等の態度も含めた検討は，いまひとまわり大きく広がる『手をつなぐ子等』の世界を示唆している．他日を期したい．

（たまむら　くにひこ）

謝辞

社会福祉法人大木会理事長・田村俊樹氏，同法人一碧文庫担当・辻好明氏，元一麦寮長・吉永太市氏には史料の収集・閲覧，また，対照表の作成などでご協力を得た．記して感謝申し上げます．

本研究は2019年度人間発達研究所研究助成事業の成果の一部である．

注

1）清水寛「滋野小学校の特別学級と田村一二先生」『京都障害者歴史散歩』文理閣，1994年，pp.163-181

2）長谷川潮『児童文学のなかの障害者』ぶどう社，2005年，pp.87-98

3）戦中に出された『手をつなぐ子等』は，国会図書館に所蔵されているものは，初版である

が，奥付日付に修正がある．また，2版，3版は，一碧文庫所蔵のものや個人所有のものが存在しており，データでも確認している．

4）第4版の所蔵が明示されているのは愛媛大学図書館と公益財団法人日本近代文学館だけであった．今回は愛媛大学所蔵の現物をみたが，痛みが激しく複写などはできなかったので現認したにとどまっている．第5版は，図書館等での所在は確認できなかったが，田村一二記念館から湖南市図書館に委託されている図書の中に第5版が存在していた．

5）プランゲ文庫は国会図書館がデジタル化して閲覧を可能にしているものである．なお，第7版は国会図書館からウェブ経由でダウンロード可能なものとなっている．

6）見落としがあるかもしれないので，現時点での評価であり，今後とも詳細な検討を必要とすることを注記しておきたい．

7）日本出版会は1942年2月日本出版事業令で日本出版文化協会（1940年12月内閣情報局の外郭団体として発足）が再編成された組織である．

8）印刷者の欄では，敗戦直後の印刷事情について興味深いことも指摘しておきたい．敗戦直後に発行された第3版は，日本写真印刷有限会社とあるが，この会社は田村敬男の回想によれば，大雅堂と同時期に企業整理によってつくられた印刷所であり，田村敬男も創業時に尽力した．田村敬男は終戦間際に，その後の印刷が可能となるように印刷工場の岐阜への疎開を主導しており，今日の大同印刷株式会社のもととなった．また，戦後直後の第4版が印刷された「竹秀」は，大阪の南区にあった元東平国民学校校舎を住所としていたが，この東平国民学校は1945年3月13日から14日にかけての第一次大阪大空襲によって校舎は全焼している．その場所が，敗戦後，印刷所の住所となっている．

9）谷暎子『占領下の児童書検閲（資料編）』（新読書社，2004年），同『占領下の児童出版物とGHQの検閲』（共同文化社，2016年）参照．

10）田村敬男「『忘れられた子等』の想い出」『つくも』№106，1976年3月，pp.1-2

11）田村敬男編『或る生きざまの軌跡―人の綴りしわが自叙伝』（昭和堂印刷，1980年），田村敬男『荊冠80年』（あすなろ，1987年）

12）田村敬男『荊冠80年』あすなろ，1987年，pp.114-115

13）田村一二は，ある特別学級の担任からの聞いた話として，特別学級の担任へ戦地の父親から長い手紙がきたことを記している（田村一二「覚書帳より」『勿忘草』1943年9月，pp.38-39）

14）稲垣浩「万作」『伊丹万作全集月報3』筑摩書房，1961年、pp.1-2